

## 前年度の改善取り組み結果及び次年度改善策の方針

肯定的な回答の多かった項目

### 児童

項目	とても思う 思うの合計
誰かが学校のきまりを守らないときなど、先生は注意している。	89%
授業の内容は、よくわかる。	88.6%
わたしには、楽しみにしている学校行事がある。	85%

### 保護者

項目	とても思う 思うの合計
子どもたちは、学校行事を楽しみにしている。	95.5%
本校は、安全指導や避難訓練を通して、子どもたちの安全性を高めている。	91.8%
本校の子どもたちは学校生活が楽しいと感じている。	88%

- 前年度の大きな学校行事は、入学式・運動会・学芸会であったが、児童がどの行事に対しても前向きに取り組むことができた。次年度以降も児童が主体的に行事に取り組むことができるよう計画を行っていく。
- 自分や友達に対しての教師の生活指導上の指導について児童が納得している様子がうかがえる。これからも、生活指導部を中心に細かいところまで確認し、学校で統一した指導、公正公平な指導を行う。
- 算数では、算数少人数の教師を中心に単元ごとに学習を振り返り、学年がチームになって授業改善を行っていった。次年度は、新学習指導要領が完全実施となるため、学習計画・指導計画をそれぞれの教科主任が中心となり、喜多見小学校の実態に合わせて作成し、実施していく。また、授業改善も同時に行い、「わかる授業」「楽しい授業」を目指す。
- 前年度は、校外への2次避難を始めて行った。全児童の移動であったが、無事避難することができた。また、水害用の東京防災のシート作りを夏休みの宿題にしたことで、家族で水害について話し合うことができ、その後の台風に備えることができたと好評であった。次年度も様々な事故や災害を想定し、安全指導や避難訓練を行っていく。
- 保護者は、「子どもたちは学校生活が楽しいと感じている。」と回答していただいた割合は増えたものの、児童の毎日学校生活が楽しいと回答した割合が減少した。一見明るく楽しそうにしていても、児童によっては悩みを抱えていることも少なくない。次年度以降もスクールカウンセラーや生活指導を中心に、児童の気持ちに寄り添っていく。また、学級活動を中心に、子どもたちの主体性を大切にしていく。

否定的回答の多かった項目

児童

項目	とても思う 思うの合計
わたしは、草花を育てるのが楽しい	42.8%
「学び舎」の区立中学校との交流が活発である。	45.6%
わたしは、本を読むことが好きである。	68.2%

保護者

項目	とても思う 思うの合計
子どもの言葉遣いがよい。	45%
子どもたちは、本を読むことが好きである。	60.5%
子どもは、あいさつをよくする。	61.2%

- 児童、地域共に「学び舎」の活動について肯定的な回答が少なかった。高学年を中心に交流をしているが、それが低学年の児童や保護者、地域に十分に情報が伝わっていなかった。次年度は、学校だよりや様々な機会で周知していく。また、児童会や生徒会を中心に、どう交流していくのかについて喜多見中学校と話し合っていく。
- 本校の特色である「労作」「読書」に対し、児童の肯定的な回答が少なかった。
 

まず、「労作」については、種や苗を植えて、後は収穫するだけになってしまったこともあった。「総合的な学習の時間」を計画的に活用していくこと。また、生活科や理科の植物の観察の単元の学習を充実させていく。

次に、保護者も肯定的な意見が少なかった「読書」については、次年度は校内の読書指導計画を充実させ、児童が様々な本と出合う機会を大切にしていく。また、図書館の司書と連携し、学級ごとに図書館の貸出冊数を確認し、どのクラスも読書する機会を充実させる。
- 「子どもの言葉遣い」については、前年度の40%からは向上しているものの、地域のアンケートからも課題だとご指摘いただいている。生活指導を中心に、校内の言葉遣いについての指導の共通理解をはかる。また、相応しくない言葉遣いは言い直しをさせる指導を行い、引き続き家庭とも連携して日常的に言葉遣いを意識させるとともに、美しい日本語週間を活用して正しい言葉遣いができるように指導していく。
- 「あいさつ」についても保護者の肯定的な意見が、昨年度の52%に比べると向上しているものの、まだ低い値である。前年度に始めた、あいさつ運動の児童ボランティアの活動を次年度も続け、自ら挨拶をすることの心地よさを味わっていく機会を多く作っていく。